

ー京都の IT 技術がインドの交通渋滞を解消ー

国際協力機構（JICA）は、11月8日、株式会社ゼロ・サムと「グジャラート州主要都市 ITS 普及・実証事業」にかかる業務委託契約を締結しました。本契約は、我が国の中小企業を対象に、JICA が本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」（※）として実施されるものです。

インドは年平均 6～8%程度と高い経済成長を遂げていますが、電力、鉄道、道路等インフラ整備の不足が、さらなる国際競争力向上の妨げとなっています。また、都市部への人口流入による交通渋滞が深刻化しており、その解決が喫緊の課題となっています。都市交通の円滑化には、人口密度の高さや土地の制約などから道路整備のみでは限界があるため、交通の流れをコントロールし、渋滞解消のためのシステムを確立することが求められています。

本事業の受注企業である株式会社ゼロ・サムは、2007年にインドで現地法人を立ち上げて以来、携帯電話向けのコンテンツ配信など、モバイルを中心とした事業を展開しています。今回は、その知見を活かし、グジャラート州の主要都市であるアーメダバード市において、道路の渋滞情報や迂回情報の取得・提供を行う高度道路交通システム（ITS：Intelligent Transportation System）技術を設置・運用する実証試験を実施します。

この高度道路交通システムは、道路に設置した交通情報センサーや、タクシーやモバイル端末からの GPS 情報を元に渋滞情報を生成し、道路上の交通情報板やモバイル端末に対して渋滞情報を提供する事で、道路を新設することなく、都市内の渋滞緩和させることが可能となります。データ通信にモバイル回線をつかい、交通管制センターをクラウド上に実現するなど最新の IT 技術を活用するのが特徴です。将来的には、アーメダバード市全域をカバーするだけでなく、インド全土の主要都市にも展開していく予定です。

※「民間提案型普及・実証事業」は、我が国の中小企業等の製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたもので、平成 25 年 5 月に第一回の公示を行いました。JICA は、開発途上国の開発ニーズや課題の解決に資する優れた技術を有する株式会社ゼロ・サムと連携し、同社の技術の普及を通じ、開発途上国の課題解決に貢献していきます。

以上